

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100377		
法人名	有限会社 エーティ		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	静岡県富士宮市大中里1164-1		
自己評価作成日	平成22年11月11日	評価結果市町村受理日	平成23年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai-go-kouhyo-shizuoka.jp/kai-gosip/infomationPublic.do?JCD=2272100377&amp;SCD=320">http://www.kai-go-kouhyo-shizuoka.jp/kai-gosip/infomationPublic.do?JCD=2272100377&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年11月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭には小さいながらも菜園があり、耕すところから収穫までの一連の作業を、近隣の方に教えて頂きながら、利用者様と職員が一緒に行っています。育てたり、収穫した野菜を調理し食べることで、季節を感じています。四季折々のイベントも企画しており、ご家族の方にも楽しんで頂けるようにしています。秋にはお祭りの山車がホーム駐車場内に来てくれるなど、地域に根付いています。また、犬とウサギを飼い、職員と一緒に餌をあげたり、ボールを投げて遊ぶことで、利用者様の癒しになっています。ほほえみでは、誰もが個々の生活スタイルを持ち、その方らしく過ごせることを支援しています。のんびり、穏やかに、笑顔があふれる家、そんなホームです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型のサービスを目指し、代表、管理者、職員が一体となって運営がされているホームである。庭は小さいが菜園があり、近隣の人達の知恵を借りて、利用者や職員が一緒になって野菜作りに励んでいる。代表と管理者の責任分担が明確化され、職員もほとんど入れ替えがないなど職場環境の良さや職員間の和が醸成されている。毎日、5～10分間の雑談ができるコーヒータムを取り入れてケアサービスの質の向上に一役買うなど、理念の実践に向けた取り組みがされている。また、看護師を採用し利用者の日々の健康面にも配慮がされており、利用者にはゆったりと穏やかな生活が提供されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『私たちはひまわりのような笑顔で自由な明るい生活が送れるように支援します』を理念とし、管理者、職員一同共有し取り組んでいる。	管理者、職員とも地域密着型サービスの意義を理解し、実践に向って理念の共有化を図り、利用者本位の支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所の際、地域の方に集まっていただき、理念や取り組みをお伝えしご理解いただいている。また、散歩時には世間話をしたり、地域の行事に参加させていただくことにより、交流を深めている。	代表者宅が地域内にあって、近隣住民とは友好かつ協力的な関係が築かれている。行事への参加や散歩時における住民との世間話など、日常的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトである管理者が、市からの要請により、講座を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度実施している。その際外部の方との意見や要望などを交換し支援に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に行っている。市の職員、区長、家族などの参加を得て双方向的な会議となっており、出された意見・要望等は運営の中で活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所として、行き来する機会は、ほとんど無いが、推進会議の際にお伝えしている。	市との関係は推進会議等を通じて相談、協力を得ている。また、市の連絡協議会への参加やキャラバンメイトとして講座を持つなど協力関係を築く取り組みがされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として行っていないが、命の危険にさらされ、守るための代替えがない場合のみ、事前にご家族に現状説明し、理解・納得いただいたうえで、同意書に署名・捺印いただいているから、実施する取り決めになっている。	管理者、職員とも身体拘束の具体的禁止行為などについて理解している。利用者が重度化し生命の危険に晒された時には、家族等に説明し理解・了解を得た上で同意書を徴取している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度のミーティングの際、職員の対応や対処について、意見交換し、お互いの振り返り、話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている利用者様がいらっしゃるので、職員にも浸透している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、ご家族の不安点・疑問点を伺い、十分な説明と話し合いをし、納得していただいたうえで契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の会話の中から、聞き取り、それを職員で共有し反映している。ご家族については、面会時に聞くことを心掛け、できるだけ要望にそえるよう努力している。玄関には意見箱も設置している。	利用者との日々の会話や家族等の面会時に声掛けをして意見を聴取している。意見・要望等に対しては可能な限り聞き入れて運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、全職員が意見や提案をできるような時間を設けている。また、ミーティングで取り上げてほしい事を記入するノートもあり、職員が積極的に参加できるように、それを多方面で反映している。	雑談の時間を設けたり、ミーティングの際には意見が言いやすいような雰囲気作りが行なわれている。また、申し送りノートには気がついたことや提案・意見などを書くよう指導がされ、これが実施に移され運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の性格、適正、感性を知り、励ましや、ねぎらいの言葉を掛けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に合った研修への参加を促している。また、ミーティング時に管理者や職員の看護師が講習を開き、好き理アップを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同で行われる研修・運動会・新年会など、交流できる場には、すすんで参加し、情報交換をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴という言葉を理解し、日々の会話の中から聞き取るよう努めているが、入居を理解できない方もいらっしゃるので、思うように聞き取れない事もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談の際、ご家族の意向・不安点をじっくり聞き、意向にはできるだけ添えるように、不安な事は、取り除けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム対象外の場合は、担当窓口と相談し他のサービスの検討を依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるため、一緒に作業する中では、常に尊敬し、学ばせて頂く姿勢で過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に、意見や意向を聞き、その希望に添えるよう職員が支援するという関係を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際には、ご自宅に立ち寄り、植木の世話をしたり、近所の方とお話することにより、関係を保てるようにしている。また、馴染みの方にはいつでもご面会に来ていただけるようお伝えしている。	利用者の希望によりコンビニエンスストア、墓参りのほか、自宅近くの馴染みの人達との会話など関係が途切れないよう支援が行われている。また、一大イベントのバーベキューには家族、ボランティア、近隣の住民等多数が参加して馴染みの人達との交流も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つの作業を、職員を交えた数人で行うことにより、みんなで談笑し、信頼関係を築いている。お互いの存在を確認することで、誘い合ったり、支え合ったりする姿が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了は、入院後転院、死亡のケースがほとんどです。葬儀にはホームとして代表が出席している。ホームとしては、ご家族の必要に応じて相談にのる体制でいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から聞き取るように努力している。会話から聞き取れない方や、自己決定が出来ない方は、生活歴やご家族の意向を聞き、全職員で共有している。	生活歴や普段の言動から思いや意向を汲み取っているが、担当職員以外の気づき等を毎朝のミーティングで話し合うことで見えなかった部分が顕われて、多面的な思いの汲み取りに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を導入し、本人やご家族から聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記入する事により、全職員が情報を共有し、把握できている。特記事項を記入するノートもあるため、職員はこのノートと介護記録には必ず目を通すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の気付きは随時報告し、ミーティングで、々の現状に適切な支援を話し合い、全職員で情報を共有し、介護計画に反映している。	モニタリングをはじめ各書類の記録を全職員で行っており、毎朝のミーティングで職員の気づきや意見を出しあい、利用者の出来る事を拾い上げて介護計画に反映している。	介護計画の作成に当たって職員の理解が深まってきている中で、更に計画作成後の職員周知の徹底化を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に毎日の気付きを記入している。特記事項は記録と送りノートに二重に記入する事により、職員への情報の浸透をはかっている。工夫や実践の結果を書くことにより、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ本人や家族の意向を伺い、それに添えるよう随時話し合いや、対応している。既存のサービスにとらわれず、その時、その方に合ったサービスが出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安全で、豊かに過ごせるよう、日々の気づきの中で、その方が出来る事は、可能な限り発揮していただきながらも、無理のないよう支援させていただいている。そしてその情報を全職員で、共有できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の月に2回の往診があるため、利用者の皆様にはそこで医療を受けていただいている。しかし、ご家族・ご本人が、馴染みの医療機関でも受診を希望される場合は、そちらを受けていただいている。	協力医の定期往診時にはできるだけ家族に同席してもらい、専門医への受診紹介や健康に関する情報を共有している。看護師職員により受診経過や医師の指示は適切に職員に伝えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しているため、健康管理は主に看護師が行っている。その上での気付きや異変は、随時職員に伝えられ、適切な対応を話し合っている。また、看護師は24時間オンコールにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の協力により、迅速かつ安心できる対応ができています。その際には、医療機関と情報の共有をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期ケアの書類を作成、説明し、ご家族の意向を伺っている。	入居時に家族の意向は確認しているが、重度化してきた場合は再度家族と具体的に話し合っている。ホーム近くに居住する代表や看護師により、夜間の支援にも差支えない体制づくりができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全ての職員が把握できている。ミーティングの際には、看護師が講習を開くなどし、実践力アップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回消防署の協力のもと、避難訓練を行っている。ミーティングの際には避難方法を全職員で実践し、身につくよう努力している。また、近隣の方へ協力を依頼し、受けて頂いている。	今年度中にスプリンクラー設置が予定されている。年2回防災訓練を実施しており、近隣への協力も書面により要請して快諾をいただいている。先の地震は訓練直後だったため適切な対応ができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩である事を忘れず、その方の生活歴を把握し、人格を尊重した言葉かけや、対応を心掛けている。	常に皆で気を付けあっても、時に雑な言葉遣いが出ることもあり、その際には気づいた職員がその場で「イエローカード」「レッドカード」「退場」等警告を出し合い前向きに注意を喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の中には、意思表示するのが困難な方や、遠慮がちな方もいらっしゃるので、個々に合わせた説明をし、できるだけご本人が表現や自己決定ができるように声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の為、全ての希望に添えるわけではないが、できる限り意向や希望に応えられるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの美容室に行かれる方や、お化粧品をされる方、髪をご自分でしばる方がいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で、利用者様・職員・近隣の方と一緒に作った野菜を収穫し、調理している。行事食を作ることで、季節を感じたのしんでいる。準備から片付けの一連の作業は、個々が無理せずできる事を見つけ、職員と一緒にやっている。	ADLの低下により利用者が調理に関わることは少なくなったが、利用者と職員が共に食事を摂っている。刻み食は刻んだ後で原形に整えたり、利用者が食べたい物を選択できるよう声掛けする等食事が楽しいものになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を、毎食後チェックし、定時に水分補給の時間を設けている。また、その方の栄養状態や、摂取量に応じて、捕食も用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個人の力量に応じた、口腔ケアをしチェック表に記入している。また、夜間は義歯を外しつけ置きをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回排泄チェック表に記入する事により、全職員が個々のパターンを把握し、定時、随時に声かけし、その方に合わせた支援をしている。できるだけ、トイレでの排泄ができるように、食事面でも支援している。	排せつチェックと水分摂取記録から個々のパターンを把握して、定時・随時の誘導でトイレでの排泄を促している。利用者の機嫌と便秘の因果関係を検討し栄養や整腸剤により気持ち良い排泄の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入している。野菜や繊維質を多く取ること、またトイレ前に歩いていただくなどをして、便秘の予防を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自己決定のできる方には、声かけをし、できるだけ本人の希望に添えるようにしている。その他の方には、ご家族の意向を、その時々々の体調をふまえておこなっている。拒否が見られるときは、無理強いはいしない。	ほぼ一日おきに入浴している。入浴剤を用いたり脱衣所でちょっとお茶を一服いただいてから入浴する。また入浴拒否の利用者には職員を替えて声掛けする等、気持ちよく入浴するための工夫も見られる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどのの方が、日中リビングで過ごされているが、休息のため居室で過ごされる方もいる。その日の個人の体調をみて、休息をとっていただいたり、ご本に希望される時には、居室で休んで戴いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルの最新の薬情報を添付し、全職員が理解できるよう取り組んでいる。また、薬によっては、服薬前後に血圧を測ったり、頓服の場合は記録に記入し、全職員が個々を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴や力を把握し、その時できる事をやっていたいでいる。その際には、感謝の気持ちを伝えている。嗜好品や、楽しみ事は、生活歴や会話の中から見つけ、支援につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、嗜好品の買い物など、個人の状態に合わせて行っている。地域の行事にも、ご本人の希望を聞き、参加するようにしている。	利用者は、職員と共に自宅へ落やみかんを取りに出掛けたり、近所のコンビニエンスストアへ買い物に行っている。利用者に不安気な様子が見られる時は、散歩に誘って気分の転換を図ったり、ドライブを楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、ご家族との相談の上、利用者様が所持管理している。また、こちらで預かり、管理している方もいらっしゃる。金銭に変化があった場合は、必ず職員が出納長に記入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙については、自ら書かれる方がいないが、電話はご本人の希望があればかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を作り、常に清潔な空間作りを心掛けている。リビングには、季節に合わせた、手作りの壁画やオーナメント、お花を飾り、季節を感じられるようにしている。	加湿器と空気清浄機が24時間稼働しており、日当たりのよい部屋は、カーテンでこまめに光の調整がされていた。畳空間は利用者が午睡や洗濯物畳みに利用され、みんなの気配を感じながら一人になれる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、狭いながらもテーブル席、ソファー、畳と異なった空間があるため、利用者様の好きなおところに座っていただいている。その際には、お互いを誘いあう姿もみられ、雑談・読書など、思い思いの時間を過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、家で使い慣れた物を持ち込んでいただくことにより、利用者様が居心地よく過ごせるようにしている。	ご主人が作った桐箆筒を持ち込んだり、自分で編んだ毛糸のモチーフを飾ったり、手仕事の材料を身近に置く等、その人らしさのある部屋作りがされている。紙おむつ類は柄物シートでカバーされており、職員の配慮が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・エレベーター・手すりを設置している。その事により、利用者様が安全かつご自分の力を発揮しやすく、できるだけ自立した生活を送っていただけるよう配慮している。		